学校だより

# おつひ

半田市立乙川東小学校
第５号
令和４年７月２０日
発行責任者：福島　冨美

**校訓　　たくましく　心ゆたかに　大きくのびよう**

## 夢に向かって

今日でⅠ学期が終わります。新しい環境の中でいろいろな活動を通し、子どもたちの心と体は大きく成長しました。保護者の皆様をはじめ、地域やサポーターの皆様、温かいご支援をありがとうございました。

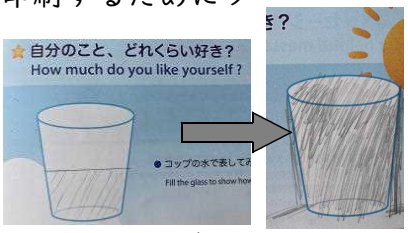
さて、先日６年生が、ＮＰＯ法人ゆめドリの方をお招きして「ドリームマップ」の作成プログラムを体験しました。「ドリームマップ」作成プログラムとは…。

> ドリームマップは「夢への地図」。
> ドリームマップ授業で描く夢とは「ワクワクと心が動き出し行動せずにはいられないこと」。
> 決して大きく立派な目標や、将来の職業を決めさせることではありません。
> 「どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るのか」
> 対話を通して得た気づき、アウトプットが子どもたちの行動につなげるきっかけとなることを目指すプログラムです。　　NPO法人ゆめドリHPより

具体的には、まずは夢をかなえる法則を知り、自分や友達との対話を通し、自分や自分の未来へのイメージを膨らませていきます。そして、そのイメージを写真やイラスト・言葉等を使って画用紙の上に表現していきます。最後に、自分のドリームマップをみんなに言葉で伝えます。そして、未来の夢と今の自分を結びつけ、具体的な行動へつなげていきます。

印象的だったことが２つあります。一つは、ドリームマップ作成のためにある程度写真やイラストを各々準備していたのですが、自分のことを見つめたり、友達とドリームマップを見せ合ったりする中で、子どもたちのイメージがどんどん膨らんでいったことでした。その新たなイメージに合うイラストを探して、印刷するためにプリンターの前には列ができていました。

もう一つは、「自分のことがどれくらい好きですか。コップの水の量で表現してください。」の問いかけに、子どもたちが描いた水の量です。右写真は、プログラムの最初と最後に描いたコップです。半分ほどの水を描いていた子が、最後はあふれるほどの水を描いていたこと。



時間にしてわずか６時間ほどで、子どもたちが未来への希望を膨らませ、今の自分を好きだと感じることができたのです。もちろん、一過性のものかもしれません。しかし、「自分を見つめ表現する」「自分を受け入れてもらう」「自分とは違う考えに触れる」「多様な考えを受け入れる」…、こうした体験を繰り返ししていくことの価値を感じました。

折しもこの日は七夕の日。子どもたちのドリームマップがかないますように！

## 終業式
## 「１学期にがんばったこと」の発表

☆終業式に、体育館のステージ上で発表しました。１学期は、６年生が体育館で聞き、１・２・３・４・５年生の教室とはオンラインでつなぎました。

### あさがおをそだてたよ

１ねん　　みずの　けれん

わたしは、せいかつかのべんきょうで、あさがおをそだてました。

５がつ６かに、せんせいがたねをくれました。たねは、ちゃいろくて、くろくて、ちいさかったです。たねまきのとき、どんなはながさくか、どきどきしました。

５がつ１３にちに、めがでました。かたちが、ちょうちょみたいだなとおもいました。はっぱのしたのぼうが、うすむらさきいろでした。
はっぱは、ぴしんとしていて、きれいだな、とおもいました。

うえきばちがこんできたので、まびきをしました。１ぽんとるとき、かわいそうだなとおもいました。

つるがのびたので、しちゅうをつけました。つるがほかのところにいっちゃったからです。

つるから、あさがおのつぼみがでてきて、はなのいろがみえてきました。もうすぐはながさきそうです。

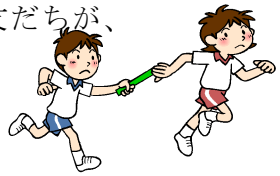
６がつ２９にちに、はじめてはながさきました。はなは、うすむらさきいろで、ぴんとしていました。こんなにきれいなんだとおもいました。

はながかれても、ねっこがあるから、またふっかつします。だから、これからもせわをがんばって、もっとたくさん、はなをさかせたいです。

### １がっきにがんばったこと

２年　大渕　伶愛那

わたしが１がっきにがんばったことは、体いくのリレーです。わたしたちのチームはいつも４位ばかりだったので、みんなでさくせんを考えていたら、友だちが、



「コーナーを小さく回ればいいんじゃない。」
と、言ったので、
「やってみよう。」
と、みんなでやってみることにしました。チームのみんなで、さくせん通りはしったら、コーナーを大きく回っている子をぬかすことができ、ついに１位をとることができました。

これからも、たくさん考えて、チームのみんなで力を合わせて１位をとりたいと思いました。

### わり算の筆算

４年　福田　悠馬

ぼくは、もともとわり算が苦手でした。だから、４年生になってわり算の筆算が始まると聞いて、ぼくはこう思いました。「わり算の筆算なんかできっこない」

授業が始まってやってみましたが、やっぱりむずかしかった。そんなとき、友達が、
「教えてあげる」
と言ってくれました。ぼくはその子の教えてくれたことを気をつけながら何度も練習しました。やっと問題がとけるようになったとき、とってもうれしかったです。そのときぼくは、「次はぼくが分からなくてこまっている友達をたすけたい」と思いました。そこで、３ケタ÷１ケタの筆算では、何度もたくさんちょう戦して、一人でできるようにしました。そして、こまっている友達に教えてあげました。友達ができたときに
「ありがとう。」
と言ってくれました。そのときぼくはとても気持ちよく、うれしかったです。

これからも分からないことがあったら、何度もちょう戦してできるようにしようと思います。そして、こまっている人に教えてあげたいと思います。この行動は、人のためになるし、自分のためになる、とてもいいことだから、これからもやっていきたいです。

## １学期にがんばったこと

５年　松永　怜奈

私が１学期にがんばったことは、あいさつです。あいさつはやって当たり前のものだと分かってはいました。しかし、いざやってみようとすると、どうしても声が出ませんでした。

ですが、校長先生がいつも校門の前に立って楽しそうにあいさつをしているのを見て、私は、もしかしてあいさつは楽しくやれば、自然に声も出るんじゃないかと思いました。

そして、校長先生に、思い切って元気いっぱいにあいさつしてみました。すると、校長先生もうれしそうにあいさつを返してくれました。私は、とてもすっきりとした気持ちになり、一日中気持ちよく過ごせました。

校長先生が、楽しそうにあいさつをしていると気付いてからは、近所の人や先生などにも楽しく気持ちのよいあいさつができるようになりました。

２学期も、「楽しく」という気持ちを忘れずに、今までのあいさつができていなかった分を取り返す気持ちで、たくさんあいさつをしていきたいと思います。

## 大きなかべをこえて達成する

６年　田平　千尋

私が一学期にがんばったことは、体育の「マット運動」です。

私は、昨年の５年のときのマット運動でかべ倒立に挑戦しました。けれど、体全体をうでで支えたり、いきなりやったりすることはとてもこわくてできませんでした。何度かかべ倒立のできる友達に教えてもらいましたが、けっきょくのところ５年生のマット運動ではできないまま終わりました。

６年生に進級して少ししたとき、またマット運動の授業がありました。今度こそ私はかべ倒立をやろうと、すぐに練習を始めました。いきなりやるのは難しいので、手の位置や足の上げ方などをやっている子を見てやりました。そして、ついにかべ倒立をすることができました。その時、私はとても嬉しくてたまりませんでした。やっとできたころ、先生の前で実際にやる本番がやってきました。本番の日、私はかべ倒立をきれいにすることができました。終わった後には、とても達成感があって気持ちよかったです。

５年生のときには全然できなくてあきらめていたけれど、６年生に上がって「もう一回挑戦してみよう！」と思えてよかったと私は思いました。

私は、一度あきらめたことでも「もう一回挑戦してみよう」と思ったら行動にうつすことが自分にとっても大きな一歩になるのではないかなと思います。

## 楽しかったこと　と　がんばりたいこと

６年　川島　有翔

はじめに、楽しかったことをおはなしします。

ぼくは、同じ学年の友だちと給食をたべています。そのときに、まわりの友だちにはなしかけたいのですが、うまくはなせません。でも、がんばって

「ぼく、すなあそびがすきなんだ。」「いっしょにあそばない。」

とあそびにさそうと、

「うん、いいよ。大放課にあそぼうね。」と返事をしてくれました。

そして、大放課に、すなばにきてくれた友だちとすなやまをつくれて、とても楽しかったです。

がんばりたいことは、あいさつをすることです。

いまは、ぼくが知っている人にしかあいさつができないのですが、もっとたくさんの人にあいさつができるようにがんばりたいです。

7／12　2年生ピザパーティー

育てた野菜で作りました

7／19　4年生川の水質検査

水道課の方がゲストティーチャーです

7月　一人一鉢植えました

花が咲くのが楽しみです

## ありがとうございました

長い間、乙東っ子の交通安全を見守ってくださった田村交通指導員さんが、1学期で退職されます。登下校時の明るい声に励まされた子どもたちは数えきれず、感謝の気持ちでいっぱいです。

7月20日の感謝の会で、お礼の言葉とお手紙を届けました。